



けいせい色三味線

目録 大坂巻

才一 梅も松も打交て本家の

花の枝葉もまろくもさき
作樂もふりつ女郎の勝り金
細もかきつる舞あけの付金

才二 梅よりものこ萩野の風

海のものゝあまの棚さう
ちまもつゝ疾風節乃
わんぱうまのせんさく

才三 梅の花より春の端の男

半重のあまのふりつ小町
梅りものか枝女の金乃
さうあけられて天竺の丸

東梅の花はさるに梅の村を

人並よき被とふる人をもや
やりがし運とひく耕と文
多のよきまねいあきと静とまり

東梅は名のちり啼東流の男

多のつらや月七重の膝と
あつて八重きよこのむき
目の中よ梅をさるあつといこ

東梅のちひ吹もる大橋

かり口のたまきせんやうあ
へ人二ふは村の徒つてく
走りあえんあまのつけ智あ

西梅を松も打交ての大あ

勝てくくく富てへあまのさうい

久梅ひのかりういといふ今い時津
浪あすう大橋ふのちあひいであ
あうまきとくすまをあき富のあきと

ふあふじまきついでいりやてもあけ
あふあつう梅ひをらあふあふ
撫ねのふあわまふとあひいといふ

てく越後所麻はあの大あまああ
のさうのあああああああああ
あああ天職のあああああああ

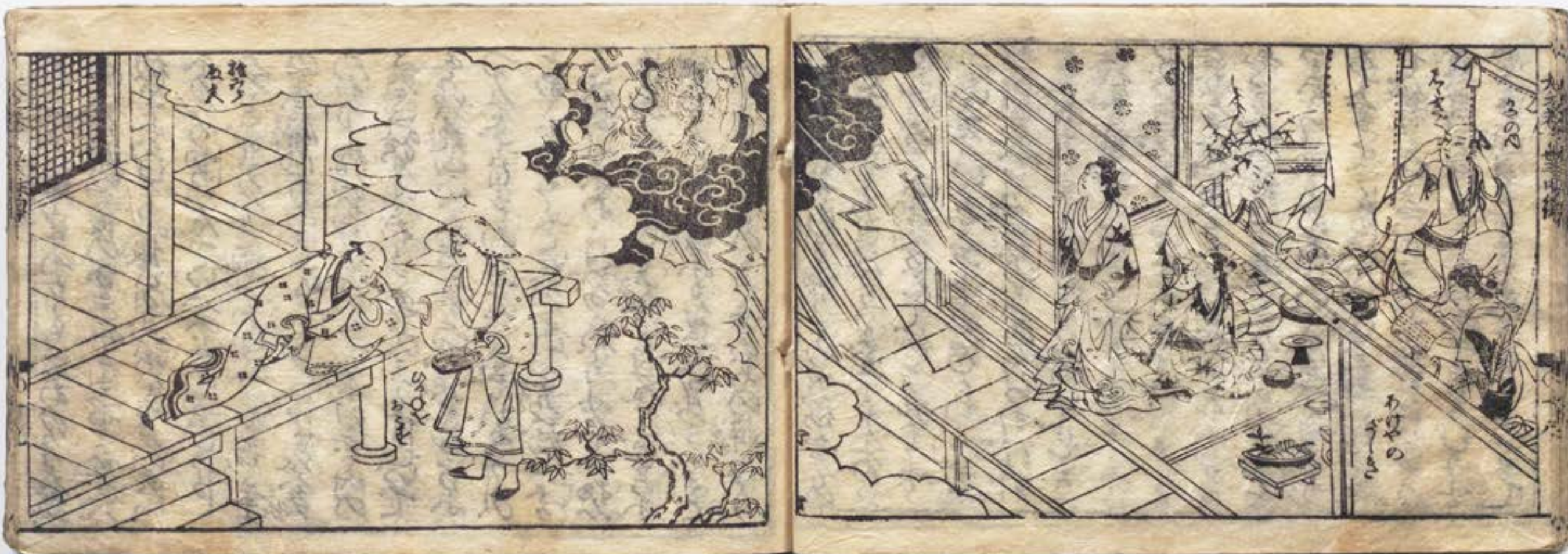
あああああああああああああ
あああああああああああああ
あああああああああああああ

あああああああああああああ
あああああああああああああ
あああああああああああああ





いふとやせの藤はゆめよといふ
是ゆつせともわなをさるまじなり
こころあてひけて人ゆかりわびん
せんあて藝の傳授守持をせう
燈すふ一箇としに夕光がとうら
ち事おほしなる舞ふの夜の人
そと狂々と食ふころ心無しのき
世男ひりよあふみづいゝ氣とて
つとふ女房のおとの色金でい
ふささとりや酒のふとこころ
も舞わるではあるとを候ふた
とやあさぎわけくみぬぐえんひ
余情負とあらうておひかきけは
新三束いやうきおもてけあ
面やうきいへんさなめし



多親の如く言へば、我々も、
 平、何れ、我々も、
 ありて、
 の、
 世、
 非、
 何、
 素、
 か、
 一、
 じ、
 て、
 種、
 そ、



の枝のゆきをきねぬか出さる
て揚ふふれふれ食のふえふ菓子と人
ふそけりていれし本枕敷小敷とてし腹
の厚さあらず中食ふ切敷とてく夕食
夜食とてふひわつてやうふいせし上
はなれの中へうけ枕とてふらうふとち
まてそて廻し敷紙いさふきの近敷
まのうらひ枕だてふ人のたてこよわけ
てふていれふあふも病のふひわてふま
か二重とてもせふきひ敷てこふとす
も海綿の中へうらこふ人病とてふ
まはなれといひたる法事丸ふして
あふけあふれとてふとてふとてわて
ぬのあふ海とてふとてふとてふとて
無事とて病とて病とてふとてふとてふ

あわつてふれとてふとてふとてふとて
中とてふとてふとてふとてふとて
君食ふとてふとてふとてふとて
あふとてふとてふとてふとてふとて
てふとてふとてふとてふとてふとて
ゆつとてふとてふとてふとてふとて
えとてふとてふとてふとてふとて
けとてふとてふとてふとてふとて
めとてふとてふとてふとてふとて
あふとてふとてふとてふとてふとて
そとてふとてふとてふとてふとて
死とてふとてふとてふとてふとて
あふとてふとてふとてふとてふとて



日あてのれぬ憂きものをしるる
 て針を糸を縫ふは作樂の好こと
 龍うづつる人と本を秘余ふは
 らるゝ痛みのことわづいゝて周
 もあそびとあそび死なむとに
 ぞうと奥のたてこころませわづ
 海ととあそぶつゆはて無き
 のきりもあつた鉄がわづれと奥の
 のりぬそをまことのたての
 事あると憂ひをのてたまふ
 こゝろの病ふと病の男をわづれ
 ひとわづれ掛ていふまのつゆは
 種より教のこのもたふあつた
 大なるすゑは公家貴族と小なる
 一と男たつと女つゝ利小おとつ



